

木村伊兵衛写真展

第6回船橋市所蔵作品展

監修／北井一夫



10/7～

街、人、暮らし—

時を経ても色褪せない、

人々の営みの記憶。



日時 平成26年10月7日(火)～12日(日)

午前10時～午後7時(最終日は5時まで)

場所 船橋市民ギャラリー (第1・第2展示室)

入場無料

主催／公益財団法人船橋市文化・スポーツ公社 共催／船橋市教育委員会 後援／船橋市

第6回船橋市所蔵作品展

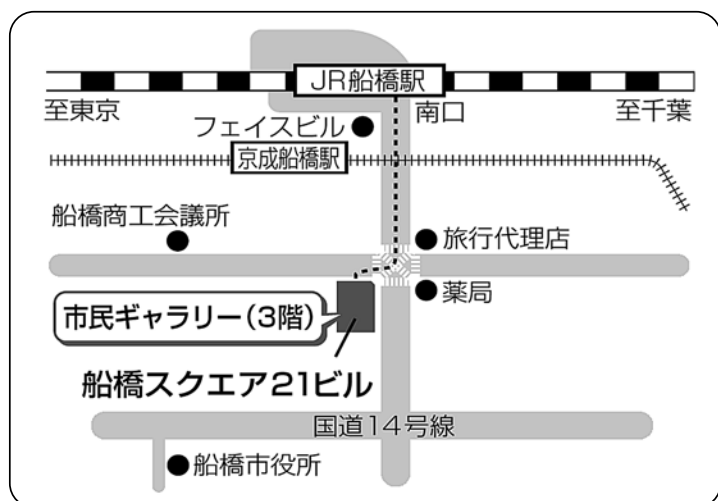
木村伊兵衛写真展

恒例となりました、市所蔵美術品をご紹介します「船橋市所蔵作品展」を開催いたします。

これまで、平成13年に「清川記念館収蔵展」を開催して以来、平成19年までに4回、平成21年に「船橋市所蔵作品展」と名を改めてから毎年開催しております。昨年度は「書～歴史上の人物～」として、歴史的な文学者・政治家の作品をご覧いただきました。今年度は、市所蔵品の中から木村伊兵衛の作品を展示いたします。木村は日本を代表する写真家として、海外でもその名を広く知られており、生涯にわたり市井の人々の何げない日常を撮り続けました。ライカ使いの名手、スナップショットの達人として有名で、その写真には被写体の持つ魅力がありありと写しとられています。今回展示いたします作品は、木村のネガが年々劣化し現像が難しくなっている中、昭和59年に市が購入した大変貴重なオリジナルプリントです。また、監修の北井一夫氏は第一回木村伊兵衛賞を受賞された市在住の写真家であり、生前の木村との面識もあり、市の作品購入の際には選定をしていただきました。

古き良き時代の日本を代表する作品にふれて、心温まるひとときを過ごしていただければ幸いです。最後になりましたが、本展の開催にあたりまして多大なご協力を賜りました関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

公益財団法人 船橋市文化・スポーツ公社



- JR船橋駅から徒歩約7分
- 京成船橋駅から徒歩約5分

木村伊兵衛(きむら いへい)

1901年(明治34年)、東京下谷生まれ。幼いころにおもちゃのカメラを手にしたことから写真に興味を持ち、成人後に写真倶楽部へ入り頭角をあらわす。1930年(昭和5年)に当時珍しかったライカを手に入れ、花王石鹸の新聞広告のための写真で写真家としてのキャリアを開始。小型カメラの特性を活かしたスナップショットは、生涯撮り続けた東京下町の新鮮でリアルな写真表現を切り拓いた。また「ライカによる文芸家肖像写真展」は、従来の肖像写真にない作家の内面や性格を一瞬で切り取った、動きのあるポートレートとして話題を呼び、評価をより確かなものとした。

戦前・戦後を通じてスナップ、ポートレート、ドキュメンタリーと多彩な分野で第一人者として活躍し、1950年(昭和25年)に日本写真家協会の初代会長に就任。一写真家として、また写真界を支える立場として、1974年(昭和49年)に72歳で没するまで、常に第一線でトップとして活躍し、日本の写真界をけん引し続けた。



■作者の地元、何度も撮影した鶯谷駅の情景
(昭和23年 鶯谷)

船橋市民ギャラリー

船橋市本町2-1-1 船橋スクエア21ビル3階
Tel.047(420)2111